

日本人の視角から記述したアメリカ経済の歴史

歴史を知らない人は退歩する¹という話がある。われわれ自身の歴史を正しく研究することも大事だが、他の国の歴史を理解してわれわれに良い参考にする 것도大事だ。特に今現在、世界最大最強の経済で世界経済を先導しているアメリカを見て、彼らの善し悪しを取捨選択し、われわれの参考にすることはとても意味があることだ。

アメリカという国は、国家としての歴史が短い、若い国だ。しかし、その短い歴史にもかかわらず、自由と民主主義という基本構図のうえに政治、経済、文化的側面で、密度がある経験をしてきた国である。もちろんその背景には、ヨーロッパから渡ってくるとき、一緒に持ってきた精神文化的遺産と、広大な領土と、資源という与件がある。しかし同じ新大陸にも豊富な資源がある所に、アメリカより先にヨーロッパ人が定着し、建国した国々もある。にもかかわらず、中南米の国々は、開発途上国または中進国水準にとどまっている場合が多い。そうした点を考慮するとき、アメリカ人の生き方には何か違う点があるのではないかというふうに思われる。その観点からアメリカの歴史、特に経済史はわれわれの関心をよぶ。

ヨーロッパ人、特にイギリス系の人々が大西洋岸に住み始めたのがわずか400年前であり、その後イギリスの植民地ではなく、一つの独立国として生まれて生きてきた200余年のアメリカをみることは、とても躍動的で、面白いことだ。アメリカ人達はいろいろな面で開拓者的な面貌がある人達だ。

訳者は常々アメリカの経済史に対する正しい理解の必要性を感じていて、特に米国人でない第三国の人、それも特に日本人の視角から見たアメリカ経済に関する理解と説明に接したいと思っていた。そんななかで、本訳書の元の書物に日本に出遣い、読んで翻訳したい気持ちになった。訳者は韓国とアメリカで教育を受けたので、日本語はとても下手だ。しかし、周りの人の助けを受けることを勘案して、翻訳を実践しはじめた。

著者秋元教授は訳者と同輩²で、第二次大戦後に成長し、教育を受けた方

¹ 退歩する：後戻りの意味。

² 同輩：同じ世代という意味。

だ。そして訳者のように経済学を勉強した後で、経済史の研究をした方である。そのためか、彼は経済史の叙述の上で、経済問題の理論的な側面に関する説明も、時にはやさしくしている。だからといって、経済学を勉強していない読者が読めないくらい理論的でもない。著者は自分でも指摘しているように、アメリカのニューディール分野に多くの業績のある経済学者である。だからであろう、この著書でも相当部分を大恐慌とニューディールにこだわっている。さすがに日本人で、緻密に、アメリカ経済の歴史を記述している。

翻訳は可能な限り、原文に忠実しようとした。しかし、ときには韓国語読者が読みやすいように、その表現を韓国式に換えたところもあり、何箇所か訳者が注を入れたところもある。但し、原著者の意図がそのまま伝えるように、過ぎた意識は避けたので、韓国読者にはたまには少し不自然な表現があるかもしれない。正確な理解のために、きちんきちんと読んでいただくことを願っている。著者はこれまでに渉猟して整理した資料を、とても細密に提示している。一般の読者には少し難しいかもしれないが、アメリカ研究、またはアメリカ経済を理解しようとする読者にはとても貴重な資料になるだろう。

著者はこの書物で、クリントン時代の開始までを記述している。しかし、もう2004年になったので、過去十数年の歴史も大事である。そこで、私は著者秋元教授の「ニューエコノミーとアメリカ中産階級」(『歴史と経済』179号、2003年4月)というタイトルの論文を、最終章として追加し、補完した。

この本が韓国語で生まれることを助けてくださった方々に感謝する。まずは翻訳過程で助けてくださったムンジャンダル先輩、原稿の手入れに便利のように便宜を図ってくださった関西外国大学山本³国際担当学長、原稿の整理に大いに奮闘いただいたデジン大のハンジへさん、ソククカン君、そして出版のために苦勞してくださった図書出版のハットニィ ジョンヒシュ代表にも感謝する。もちろん、この良い内容を本にまとめて、後学⁴教育に大きく役立つ翻訳を快く承諾してくださった著者秋元英一教授に感謝する。⁵

³ 山本：ヤマモトと書いてありまして、山元かもしれません。

⁴ 後学：後に役に立つ学問。

⁵ 全般的に、訳者の言葉使いを、そのまま表現しています。